

CASBEE-建築(新築)2024年版
株式会社京伸トラック 倉庫

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q1 建築物の環境品質						2.3
Q1 室内環境			0.31		-	2.5
1 音環境		1.8	0.15		-	1.8
1.1 室内騒音レベル	—	1.0	0.40		-	
1.2 遮音		2.2	0.40		-	
1 開口部遮音性能	—	3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能	—	1.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-		-	
1.3 吸音	—	3.0	0.20		-	
2 温熱環境		2.0	0.35		-	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50		-	
1 室温	BPIm:0.71	3.0	0.38		-	
2 外皮性能	—	3.0	0.25		-	
3 ソーン別制御性	—	3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20		-	
2.3 空調方式	—	1.0	0.30		-	
3 光・視環境		3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30		-	
1 昼光率	—	3.0	0.60		-	
2 方位別開口	—		-		-	
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策	—	3.0	0.30		-	
1 昼光制御	—	3.0	1.00		-	
3.3 照度	—	3.0	0.15		-	
3.4 照明制御	—	3.0	0.25		-	
4 空気質環境		3.4	0.25		-	3.4
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00		-	
4.2 換気		2.6	0.30		-	
1 換気量	—	3.0	0.33		-	
2 自然換気性能	居室における自然換気有効開口面積1/20以上	4.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮	—	1.0	0.33		-	
4.3 運用管理		3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視	—	3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御	—	3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能			0.30		-	3.1
1 機能性		3.0	0.40		-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40		-	
1 広さ・収納性	執務スペース9.5㎡/人	4.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応	—	1.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画	—	1.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30		-	
1 広さ感・景観	事務室天井高さ2.7m	4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース	休憩室9.8㎡/事務室85.38㎡=11.4%	4.0	0.33		-	
3 内装計画	—	1.0	0.33		-	
1.3 維持管理		4.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	外壁材を耐候性の良いもので計画をした	5.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	掃除道具等に配慮したスペースを確保した	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		2.6	0.30		-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	—	3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		1.4	0.20		-	
1 空調・換気設備	—	1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	—	1.0	0.20		-	
3 電気設備	—	1.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備	—	1.0	0.20		-	

3	対応性・更新性		3.8	0.30	-	-	3.8
3.1	空間のゆとり		5.0	0.43	-	-	
1	1 階高のゆとり	階高6.0m	5.0	1.00	-	-	
2	2 空間の形状・自由さ	-	-	-	-	-	
3.2	3.2 荷重のゆとり	-	-	-	-	-	
3.3	3.3 設備の更新性		3.0	0.57	-	-	
1	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.39	-	-	1.4
1	1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	-	1.0	0.40	-	-	1.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.3
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.7
1	1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.71	5.0	0.22	-	-	5.0
2	2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-
3	3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.55	3.5	0.56	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価		3.5	-	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	4 効率的運用に向けた取組み		3.0	0.22	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	4.1 モニタリング	-	3.0	0.40	-	-	
4.2	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.40	-	-	
4.3	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-	3.0	0.10	-	-	
4.4	4.4 コミッショニングの推進	-	3.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.2
1	1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	1.1 節水	-	3.0	0.40	-	-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	2 非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	簡易な仕様にしたことにより、解体時に分別を可能にした	5.0	0.22	-	-	
3	3 汚染物質含有材料の使用回避		4.3	0.20	-	-	4.3
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用	F☆☆☆☆の仕様にした	5.0	0.30	-	-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	1 消火剤	-	-	-	-	-	
2	2 発泡剤(断熱材等)	グラスウール:ODP=0、	5.0	0.50	-	-	
3	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1	1 地球温暖化への配慮	排出率83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	3 交通負荷抑制	建物を道路から離して、道路の混雑緩和に取り組んだ	5.0	0.25	-	-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3	3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
2	2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
3	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
3.2	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
2	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

株式会社京伸トラック 倉庫

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	2.0	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	-	○	○	○	○	○	-	-	○	-	○
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	-	-	○	-	○	○	-	○	○	-	○	○
2.4.1 空調・換気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	8.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η)	0.4
U値(W/m ² K)	窓システム 3.2	屋根	0.5
外壁	0.5	床	-
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -
η AH -			
昼光率	0.0%		
自然換気有効開口面積率	5.0%		

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	9.5㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡	
コンセント容量	0.0 VA/㎡						
天井高	2.7 m						
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%				
想定耐用年数	0 年						
想定必要間隔	0 年						
想定必要間隔	0 年						
想定必要間隔	0 年						
階高	6 m						
壁長さ比率	9.5%						
床荷重	— N/㎡						
外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%				
空地率	53%	水平投影面積率	10%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	46%
BPI/BPI _m	0.71	断熱等性能等級	0 相当				
影響範囲の割合	0.0%	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
		太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kWh
BEI/BEI _m	再エネ有	0.55	無	0.55	オフサイト再エネ有	—	〇〇GJ/年
一次エネルギー削減率	再エネ有	#####	無	#####			—
雨水利用率	0.0%						
特定調達品目	—	エコマーク商品	—	自治体指定の特定品目等	—		
使用比率	0.0%						
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
見付面積比	#DIV/0!	隣接間隔指標R _w	—				
地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	100.0%	外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	0 m	基準高さH _b	0 m		
緑地	㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	1,518㎡
				再帰性反射対策面	㎡		